

まちづくり懇談会

Challenge × Ideas = 未来へ



有田市



次第

トピックス

- 開会
- 挨拶
- 説明
- 質疑
- 閉会

- 新 市民会館・図書館
- 子育て世代活動支援センター
- 地方創生
 - 5つ星プロジェクト
 - 包括連携協定
 - ふるさと応援寄付
- ごみとリサイクル
- 国道42号有田海南道路

- 防災への取組
- 工場火災への対策
- 教育の取組
- 市立病院の取組
- 高齢者福祉
- 公共施設老朽化と
財政状況

新 市民会館・図書館

子育て世代活動支援センター

■■平成29年7月29日開館■■

○市民会館 紀文ホール 概要

714席(うち親子席11席、車いす席4席)

舞台：反射板を設置するなど残響に配慮

座席：密柑山を模した、間隔や座り心地に配慮した客席



有田市民会館外観



紀文ホール



図書館

○図書館 概要

旧図書館の約3倍の広さ

最大約12万冊収蔵可能

DVD等を視聴できるAVブース

インターネット席を備えた136の閲覧席

子どもトイレを設置

<オープンから2ヶ月>

紀文ホール来場者 約7,000人

図書館利用者 約26,000人

(前年同月比約5倍)

旧図書館跡地をリニューアル 「集う」「遊ぶ」「学ぶ」

子育て世代活動支援センター 全体 400㎡ (あそび場のみ 243㎡)

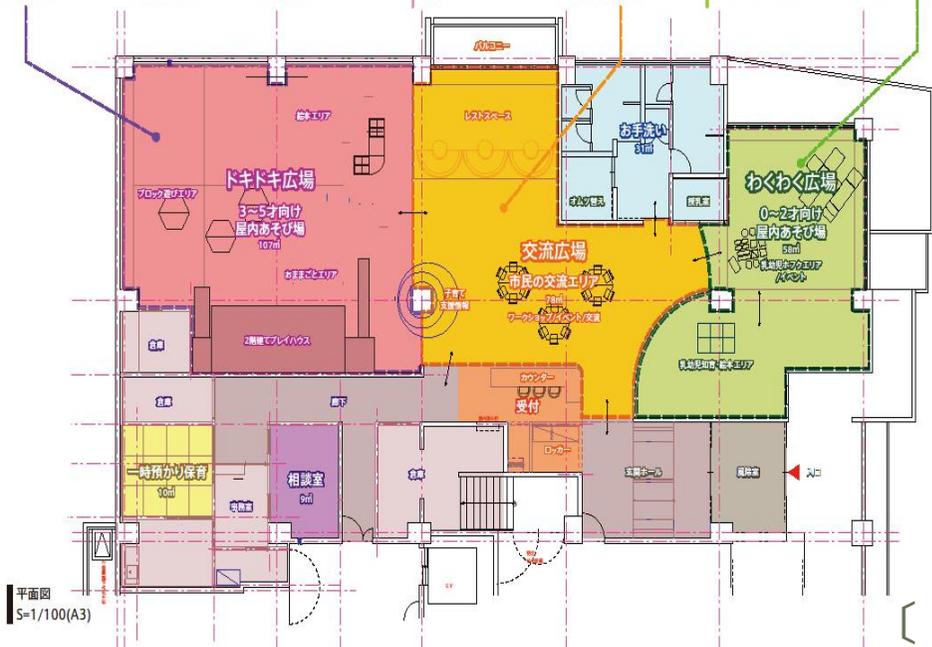
ドキドキ広場 3〜5才向け屋内あそび場



交流広場 市民の交流エリア



わくわく広場 0〜2才向け屋内あそび場

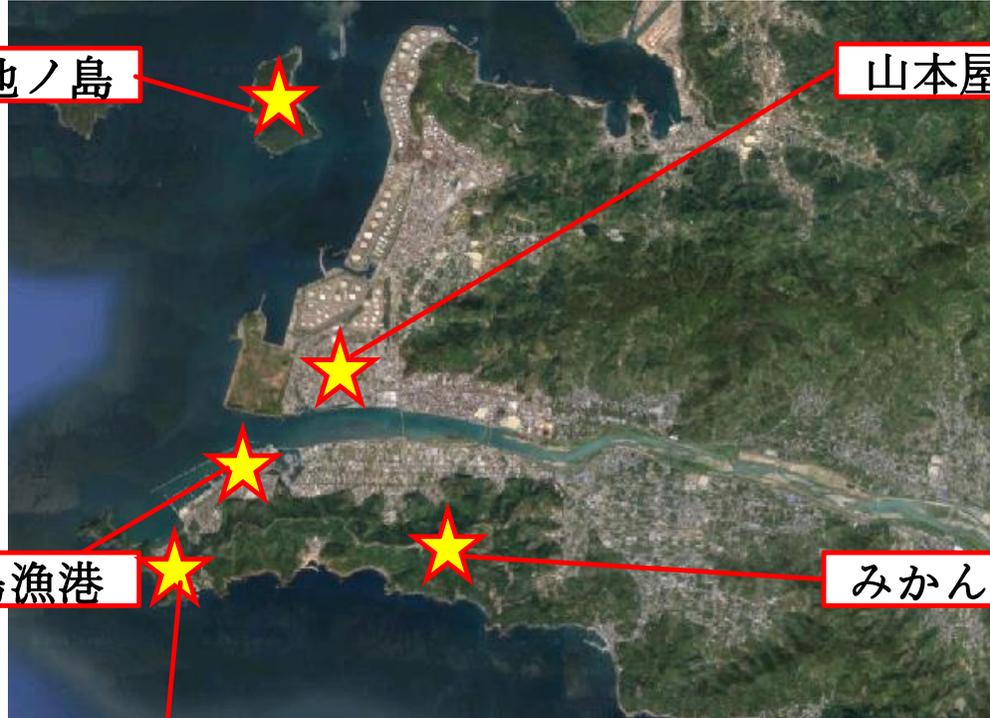


地方創生 西側海岸 5つ星プロジェクト



地ノ島

- ・ 抜群の水質を誇る無人島
- ・ 一年を通じて活用される「おもしろい宝島」



山本屋敷



- ・ 築200年 紀州徳川家ゆかりの武家屋敷
- ・ 集客施設として甦らせる



箕島漁港

- ・ 漁師の息吹を感じる漁港
- ・ 鮮度抜群の魚が買える、味わえる



矢櫃地区

- ・ 海に面した自然豊かな風光明媚なまち
- ・ 空き家を活用して賑わいを創り出す

みかん海道



- ・ 湯浅湾、紀伊水道を望む「海の道」
- ・ 絶景で人を魅きつける

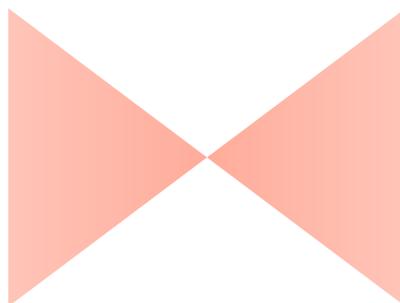
地方創生 産業振興に関する包括連携協定



◆包括連携協定の全体像

産業振興

- ・ 地域収入増
- ・ 地域雇用増
- ・ 農業後継者問題の解決



地方創生

- ・ 一次産業分野での新たな課題解決手法を探求

◆みかん農家さん向け説明会



○有田市の農家の課題解決に向けた2017年度実施事項

- ・ 原産地呼称管理制度の磨き上げ・農家の開拓
- ・ ふるさと納税 寄附額の増加
- ・ ダイレクト流通による販路開拓
- ・ ブランディングの推進（単価アップ）
- ・ 中長期戦略の立案

有田みかんの未来のために。

地方創生 ふるさと応援寄付制度



◆寄付額実績

平成27年度：3億9,500万円 ※和歌山県下トップ

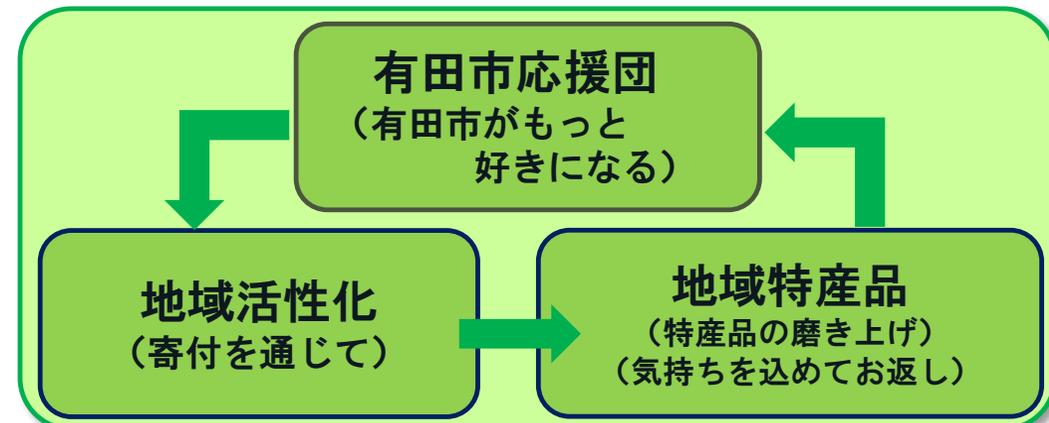
平成28年度：7億4,200万円(前年比188%) ※近畿地方で4番目

平成29年度：3億1,800万円(前年比186%) ※9/19現在

[今年度目標額] 12億円

◆寄付金の主な活用実績（平成28年度）

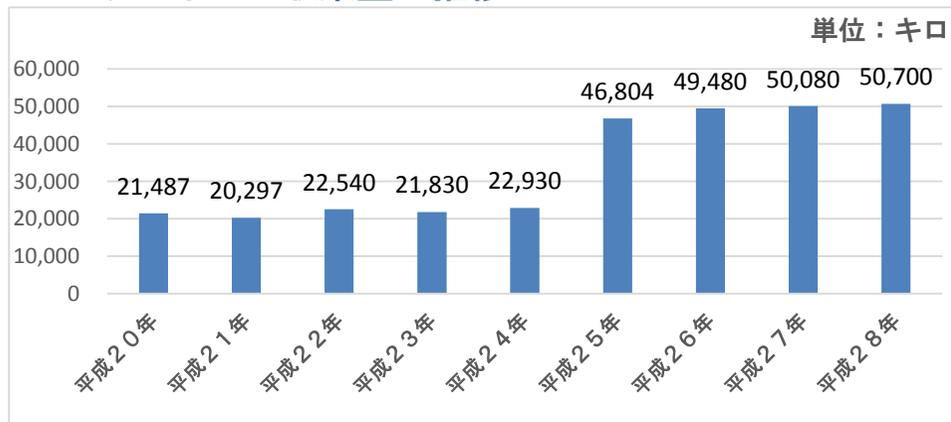
- ・中学生海外派遣研修事業
- ・子ども医療事業
- ・図書館運営事業（図書購入等）
- ・社会体育活動事業
- ・原産地呼称管理制度事業



ごみとリサイクル

国道42号有田海南道路

■ペットボトル収集量の推移



平成25年度からペットボトル分別収集取組強化

↓
回収量：平成24年度の2倍
平成27年度以降 年間50t超

■小型家電リサイクルを開始

平成30年度からボックスを設置し、小型家電の回収を開始

■新ごみ処理施設建設

有田周辺広域圏事務組合（1市2町）で取り組んでいる現在までの進捗状況



平成28年度(仮称)有田川一号橋 橋脚1基完成

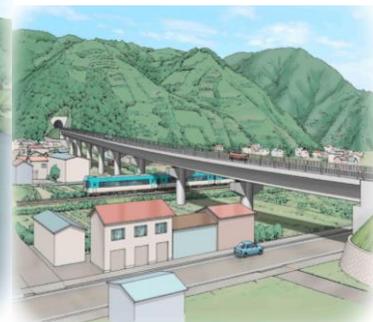
延長：9.4 km（有田市野～海南市冷水）

有田海南道路の整備効果

- 渋滞の解消及び所要時間の短縮
- 交通事故の減少
- 災害時の交通機能の確保
- 通行車両制限区間の解消



有田川部イメージ



新堂地区イメージ

防災への取組

工場火災への対策

自 助

- ハザードマップの活用
- 防災講演会の開催
- 住宅耐震化の促進
(耐震診断・改修への補助)

共 助

- 自主防災組織育成事業補助金
- 避難訓練の支援
- 災害時協力井戸の募集
- かまどベンチ・井戸の設置
- 土のうステーションの設置

公 助

- 夜間の避難対策・・・バックアップ機能付LED照明灯
- 広域避難拠点地整備・・・港町、有田みかん海道沿
- 備蓄物資の充実・・・食料、飲料水、発電機、投光機
- 情報発信の多様化・・・有田市メール配信、データ放送



問題点の抽出

- アンケートの実施
→ 地域住民・職員
- 各関係機関との協議
→ JXTG・警察・消防・市

公助

工場火災避難
マニュアルの作成



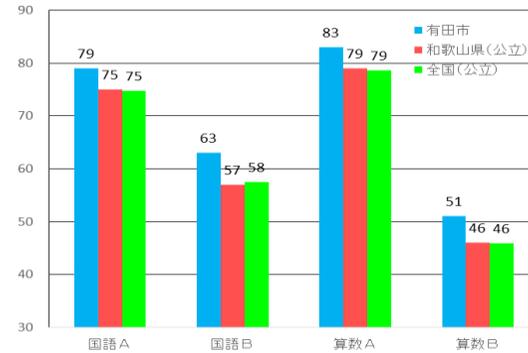
教育の取組

■教育環境の整備

- ▶施設の整備
 - ・保田中学校の屋内運動場（体育館）の改修工事完了
 - ・小中全校舎の空調機器の整備完了
 - ・トイレ洋式化工事
（今年度は箕島小 今後、計画的に実施予定）
- ▶専門スタッフの配置
生活支援員・ICT支援員・学校司書・学習支援員・
スクールソーシャルワーカー
- ▶学校図書館の蔵書拡充
- ▶「特色ある学校づくり推進事業」の拡充
- ▶保田小学校
文部科学大臣奨励賞・第31回時事通信社教育奨励賞
優秀賞・和歌山県きのくに教育賞を昨年度受賞

■平成29年度全国学力・学習状況調査結果

小学6年生



中学3年生



国語A・B、算数・数学A・B（Aは主として「知識」、Bは主として「活用」に関する問題）の2教科の平均正答率（%）のグラフです。

□参考

■社会体育施設の整備

- ▶新市民プールの建設構想
平成31年度末に
新市民プール完成予定

■社会教育事業

- ▶子育て支援と子どもの居場所づくり
地域ふれあいルーム
家庭教育支援講座「親こみゅ」
「国語」っておもしろかったんだ教室

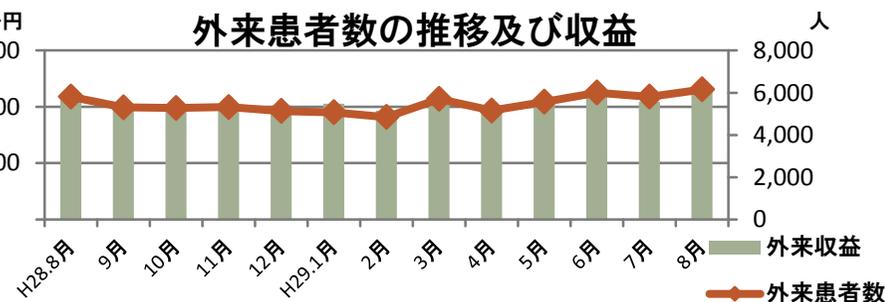
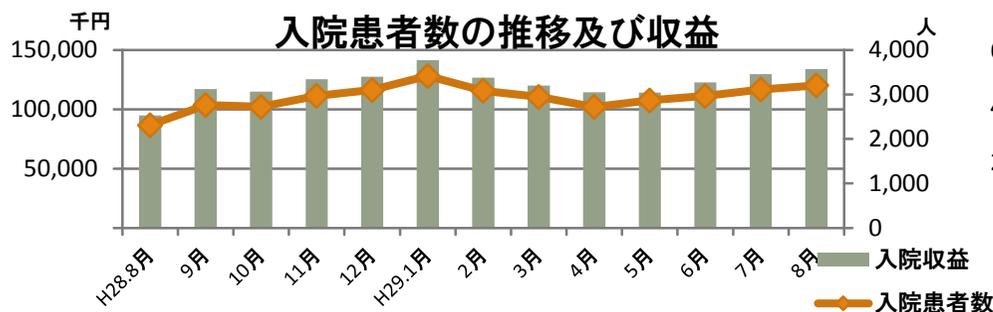
公立小学校の都道府県平均正答率

順位	都道府県	国語A	国語B	算数A	算数B	合計
1	石川県	79	64	85	53	281
2	秋田県	80	64	84	50	278
	有田市	79	63	83	51	276
3	福井県	78	60	82	51	271
4	愛媛県	77	59	82	50	268
5	富山県	78	60	82	47	267
	全国(公立)	75	58	79	46	258
21	静岡県	74	59	78	46	257
	和歌山県	75	57	79	46	257
	沖縄県	73	57	81	46	257

公立中学校の都道府県平均正答率

順位	都道府県	国語A	国語B	算数A	算数B	合計
1	福井県	82	77	73	54	286
2	石川県	82	77	69	53	281
3	秋田県	82	78	68	52	280
4	富山県	80	75	68	50	273
	有田市	78	73	69	52	272
5	愛媛県	79	74	67	51	271
	全国(公立)	77	72	65	48	262
25	神奈川県	77	72	64	48	261
	長崎県	77	72	64	48	261
	宮崎県	78	71	65	47	261
28	北海道	77	72	64	47	260
	宮城県	77	73	63	47	260
	福島県	78	72	63	47	260
	三重県	77	71	65	47	260
	和歌山県	77	70	65	48	260
	鳥取県	77	72	63	48	260

市立病院の取組



取組内容

○内科

午後診療の開始（13時30分～15時30分）

○専門外来

平成29年6月より『**もの忘れ外来**』を開始 ※予約制

○産婦人科

平成29年5月より**分娩**を再開……実績：7名（9月時点）、本年度26名の出産予定

○地域包括ケアシステムの構築

地域包括ケア病棟（回復期病棟）の充実、在宅医療（訪問看護ステーション）の強化、
予防医療（健診）の強化

○救急強化

救急対応強化のため、平日営業時間外（17時15分～19時）において内科医師待機

受入患者数 → 平成28年度実績：2,178名（対前年度比28%増） 平成29年度目標：2,600名



常勤医師の確保

平成28年8月時点・17名



平成29年8月時点・23名

内科	5名→7名
循環器科	3名→4名
整形外科	2名→3名
産婦人科	0名→1名
眼科	0名→1名



高齢者福祉

～ 自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるために ～



■介護予防

介護予防運動教室

65歳以上の方を対象に、体力にあわせた3種類の教室を各地で開催

参加無料

元気なうちから参加し、生き生きとした生活を！

<みんなのサロン>

軽いからだほぐし
運動・レクリエー
ション等

<いきいき体操>

ステップ運動・ス
トレッチ・軽い筋
カトレーニング

<やわら元気体操>

柔道整復師による
ステップ運動・ス
トレッチ・軽い筋
カトレーニング

■在宅医療と介護連携



医療と介護の両方を必要とする状態となっても、住み慣れた地域で生活するために



<在宅医療・介護連携推進協議会>
医療・介護の関係団体が連携して、在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援を行う

■認知症対策

認知症サポーター養成

講座の実施(市職員、企業向け、全小学校を対象)

→現在1,200名

認知症カフェ(市内3箇所)へ支援

情報の交換・共有を行う交流の場

→平成29年度から開催に補助

認知症初期集中支援チーム

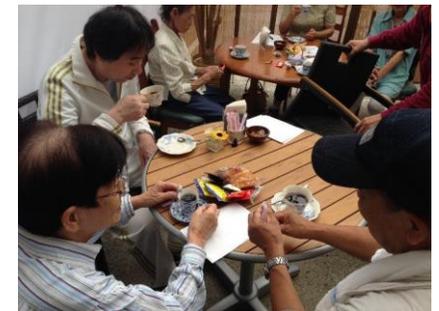
家族の訴え等により、認知症が疑われる人や認知症の人

およびその家族への支援を実施

→平成30年度からスタート



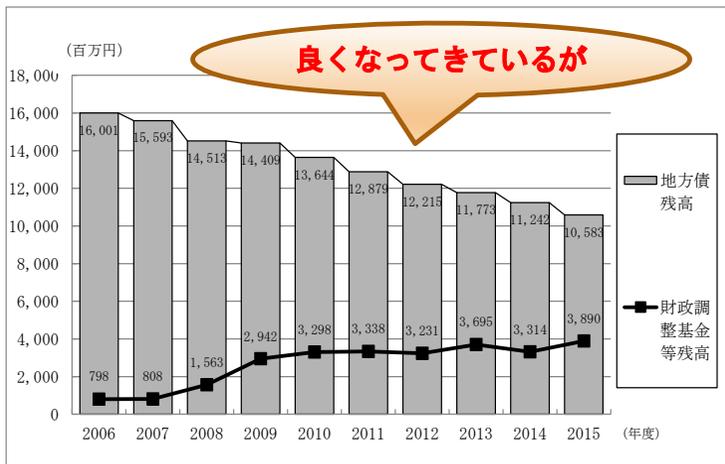
認知症サポーターの養成



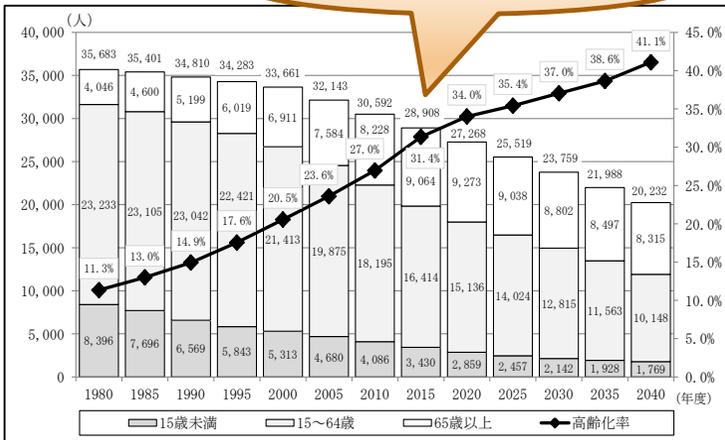
認知症カフェ

公共施設老朽化への対応と財政状況

【地方債残高及び財政調整基金等残高の推移】



【少子高齢化による影響】



全ての公共施設・インフラを保有し続けると・・・
40年間で**834**億円必要



- 【公共施設等の管理に関する基本原則】
- ① 施設総量の縮減（公共施設）
 - ② 財政的負担の軽減（公共施設、インフラ）
 - ③ 災害リスクの低減（公共施設、インフラ）

昭和55年(1980年)～平成22年(2010年)
→15歳未満人口は半減
65歳以上人口は2倍以上

将来人口推計
→平成52年(2040年)に20,232人
(同△33.9%)と予測